

日本医学会分科会活動報告

学会名(No.083) 日本自律神経学会

代表者名 日本自律神経学会理事長 黒澤美枝子

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

総会は毎年秋に開催しております。過去2年間の総会の内容、および機関誌「自律神経」の発行状況は以下のようです。

2022年度 事業報告

1. 総会開催

会長 山元 敏正 (埼玉医科大学脳神経内科・脳卒中内科)

令和4年10月27日(木)～28日(金) (於 THE MARK GRAND HOTEL)

理事長講演 : 1 演題

会長講演 : 1 演題

海外招待講演 : 2 演題

特別講演 : 3 演題

ランチョンセミナー: 6 演題 レクチャーシリーズ: 18 演題

共同セミナー : 1 演題

シンポジウム 1: 4 演題 シンポジウム 2: 4 演題 シンポジウム 3: 4 演題

シンポジウム 4: 3 演題 シンポジウム 5: 4 演題 シンポジウム 6: 4 演題

シンポジウム 7: 4 演題 シンポジウム 8: 4 演題 シンポジウム 9: 4 演題

シンポジウム 10: 3 演題 シンポジウム 11: 4 演題 シンポジウム 12: 4 演題

シンポジウム 13: 4 演題 シンポジウム 14: 4 演題 シンポジウム 15: 4 演題

シンポジウム 16: 4 演題

一般演題 : 45 演題

2. 機関誌「自律神経」発刊

第59巻1号～4号 発行

2023年度 事業報告

1. 総会開催

会長 堀田 晴美 (東京都健康長寿医療センター研究所)

令和5年10月28日(土)～10月29日(日) (於 埼玉会館)

特別講演 : 2 演題

教育講演 : 9 演題

基礎と臨床の対話 22 演題

ランチョンセミナー 4 演題 トピックス 4 演題

シンポジウム 1：3 演題 シンポジウム 2：3 演題

一般演題 : 56 演題

2. 機関誌「自律神経」発刊

第 60 巻 1 号～4 号 発行

b.当該領域における国際的な役割

これまで国際自律神経学会（International Society of Neurovegetative Research、ISNR、1955 年創設）の第 18 回会議（1977 年、東京、沖中重雄会長）と第 20 回会議（1990 年、東京、吉川政己会長）を日本で開催した他、1999 年に国際自律神経科学学会（International Society for Autonomic Neuroscience、ISAN）が創設された後は、ISAN と連携し、2—3 年に 1 度開催される ISAN 会議を協賛しております。そして 2007 年（京都、岩田誠会長）と 2017 年（名古屋、黒岩義之会長）に日本で ISAN 会議を開催いたしました。今後とも国際的な自律機能研究の発展に協力、尽力していきたいと思います。

c.活動からもたらされる社会的な意義

最近、細分化が進む医療の世界において、基礎、臨床の多くの分野の専門家が集まり、議論することで、様々な観点から現象を捉える重要性が養われるものと思います。

d.学会運営上留意している点

次の時代を担う若手研究者を育てることも、学会の重要な任務と考え、研修医や大学院生は学会参加費を免除し、会費も安くしております。また、総会時などにも若い研究者を鼓舞するようなシンポジウムなどを含めるよう心がけております。

II.日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載して下さい。

日本自律神経学会の中には基礎、臨床の様々な専門家が集まっておりますので、毎年の総会でのシンポジウムなどでは、本学会の会員ではない方々もお招きし、幅広い議論をしております。これらの方々は、生理学会関係の方や病理学会や薬理学会の関係者、あるいは臨床分野では、循環器内科、呼吸器内科、内分泌内科、眼科、泌尿器科など他学会の方々にも参加していただいております。